

# 試験報告書

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 オゾンハイポック

表 題 殺菌効果試験

2017 年(平成 29 年)12 月 08 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

### 2 検 体

オゾンハイポック

なお、検体の有効濃度は36 mg/300 mgと依頼者から数値情報の提供を受けた。

### 3 試験概要

検体溶液に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

### 4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。また, 培養後の生菌数測定平板を写真-1~5に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	有効濃度 (mg/L)	生菌数(/mL)			
			開始時	10分後	20分後	30分後
カンジダ	検 体	30	—	<10	<10	<10
	対 照	—	$7.4 \times 10^5$	—	—	$6.7 \times 10^5$

<10 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水

表-2 試験条件

	試験菌	<i>Candida albicans</i> NBRC 1594(カンジダ)
試験菌液	前培養 : Potato Dextrose Agar(Difco), 25 °C ± 1 °C, 2日間 菌液調製溶液 : 精製水 菌数 : 10 <sup>7</sup> ~10 <sup>8</sup> /mL	
検体溶液	精製水で有効濃度30 mg/Lに調製	
試験液	検体溶液10 mLに試験菌液0.1 mLを接種	
保存条件	10分, 20分, 30分(室温)	
対照	精製水	
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈	
生菌数測定	GPLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混釈平板培養法	25 °C ± 1 °C, 2日間

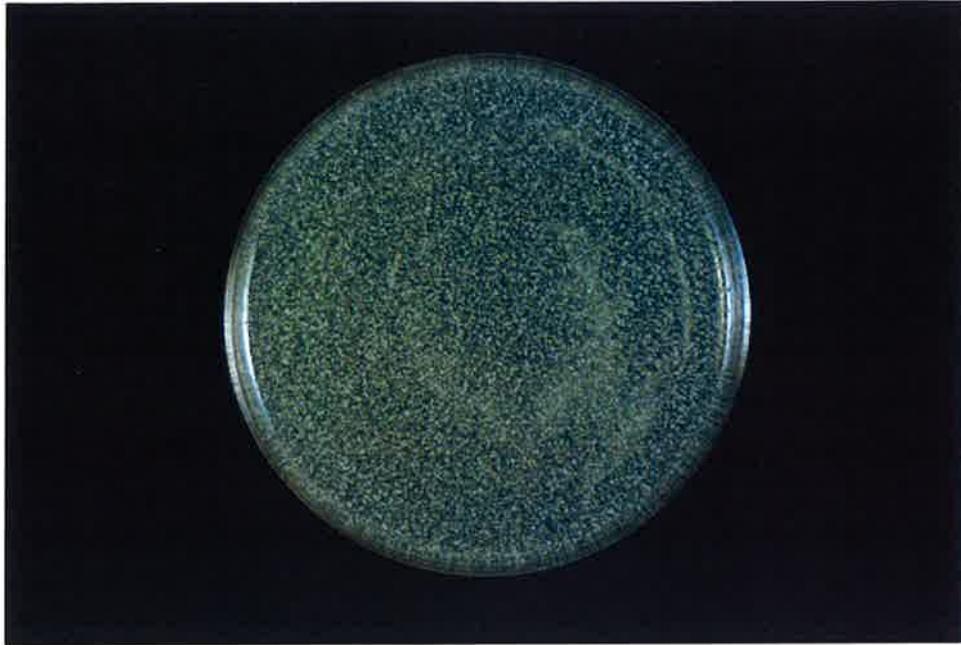


写真-1 カンジダ 対照 開始時  
(試験液 0.1 mL)



写真-2 カンジダ 検体 10分後  
(試験液 0.1 mL)

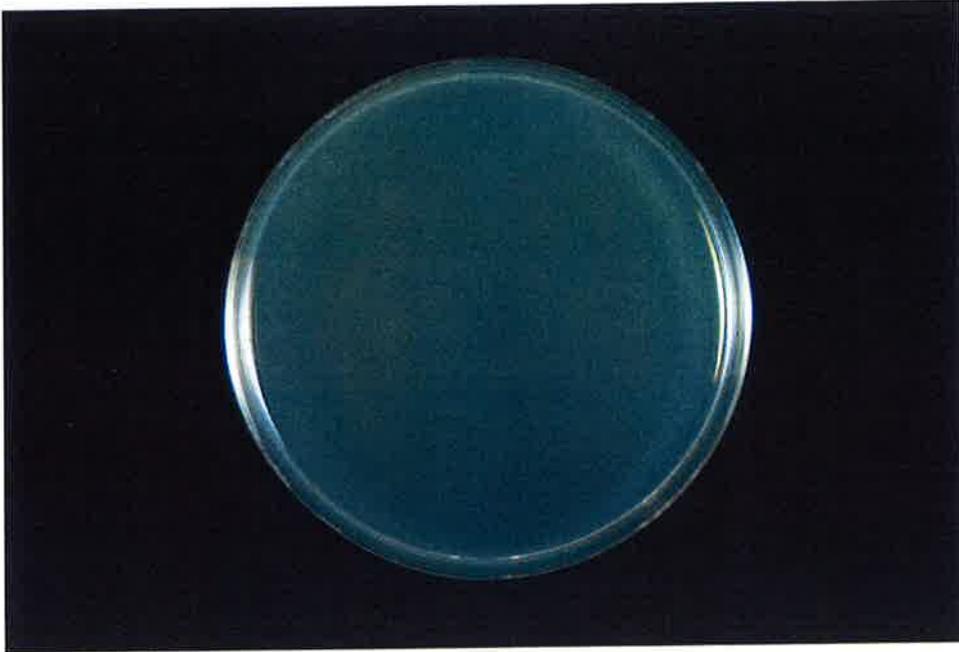


写真-3 カンジダ 検体 20分後  
(試験液 0.1 mL)



写真-4 カンジダ 検体 30分後  
(試験液 0.1 mL)

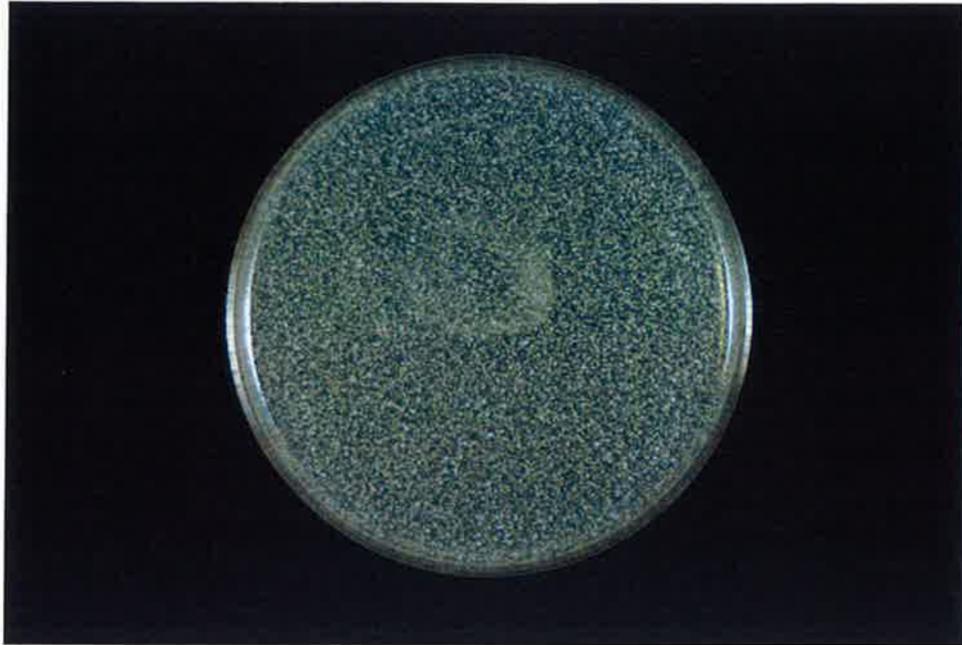


写真-5 カンジダ 対照 30分後  
(試験液 0.1 mL)

以 上